

お念仏と共に ～ 如来に念じられて生きていこう ～

八月一五日

平和の鐘をつきました



「念仏は平和の祈り」 「世の中安穏なれ 仏法弘まれ」

昭和23年生まれの私たち夫婦は今年「古希」を迎えた。それで、子や孫が集まって、ささやかながらもお祝いの会を開いてくれたのだが、その席で話が弾み、古希の記念に、みんなで縄文杉に会いに行こう、となった。

私自身は18年前の感動が忘れられず、秘かに再訪を念じてきたのだが、痛めた膝には往復10時間超の山歩きは無理ではないかと不安でもあった。ところが当日は、屋久島としては珍しく雨もなく、大自然や孫たちから元気をもらって、なんとか縄文杉にたどり着くことができたのである。

眼前にそびえ立つ縄文杉は、他の多くの生命を寄生させながら、今も泰然とたたずんでいる。

嗚呼（あゝ）、縄文杉よ！ 太古の命よ！

また翌日には、島巡りのドライブに時間がかかり、思いがけず大海原に沈みゆく夕陽に出会った。車を降りて、みんなで、沈みゆく瞬間を拝んだ。

嗚呼、陽は昇り、陽は沈む。太古の昔から連綿と続く、大いなる宇宙の営みよ！

私は、あれこれと思い煩う一日を、積んで、重ねて、70年過ごしてきた。あとどれだけ、そんな日々を積み重ねるのか分からないが、大宇宙の前には、それも一瞬の出来事であり、それで充分なんだと、そんな満ち足りた気持ちがいかに拡がっていった夏であった。 南無阿弥陀仏 釋知道

ご門徒さんこんにちわ! 第十三回

今回は、山本地区のお世話を長年され、お寺の法要の際には仏花を活けて下さっている佐々木ノリ子さんをお訪ねしました。

ノリ子さんは昭和15年生まれで今年78歳です。生まれは安心院町の深見。姉4人弟1人の6人兄弟の女の子の末っ子として育てられました。地元の学校を卒業後、友達3人と洋裁の勉強が目的で東京に二年ほどいたそうです。

でも、故郷の親が末っ子のノリ子さんを心配して、見合い話しを理由に故郷に呼び戻したそうです。相手は母親どうしが知り合いの8歳年上で評判の働き者昌克さんでした。話しはほとんど拍子に進み、年内には結婚式をあげられました。そして平成23年には金婚式を迎えられ、今年で結婚57年になるそうです。嫁いできた昌克さんの家には緑内障で目が不自由なお姑さんがおられました。物静かで優しい方だったそうです。ノリ子さんとの間には喧嘩やいじめなど無縁の関係が、83歳で亡くなるまでの40年間ずっと続いたそうです。

家業は專業農家。昭和53年に養蚕から畜産に変更し、最盛期には二百頭もの牛を飼っていました。いろんな団体が視察に訪れたり、テレビの取材があったり、とても注目されていたそうです。

ノリ子さんは、ご主人と一緒に朝早くから牛の世話に取り組み

合わせ愚痴は言わない」という信念で生きてきた昌克さんです。そのご主人をずっと支えてきたのが、ノリ子さんです。

でも、そんな働き者の二人に大きな試練が訪れました。平成4年、昌克さんに大腸がんが見つかり、二ヶ月間の入院生活、退院後も静養生活を強いられました。その間、ノリ子さんは朝5時から牛の水やり、牛舎の掃除、えさやりと一人で二百頭の牛の世話をしたそうです。私達

微笑みは慈しみ 佐々木ノリ子 (山本)



まれました。一生懸命に働く両親の背中を見ながら育った3人の子供さん(男2人女1人)たちは、親から言われなくとも、学校から帰ると牛に食べさせるえさを用意したりして、親の仕事を手伝っていたそうです。父親の昌克さんは決して声を荒げて子ども達を叱ることはありませんでした。でも、よく子ども達を牧場に連れて行って仕事の様子を見せていました。「親のつとめは仕事と子供を守ること。そして、みんなで力を

が「大変だったでしょうね」と言う」とそんなにくたびれた感じはなかったんですよ」と微笑みながら答えるノリ子さんでした。ノリ子さんが頑張ったのは、昌克さんへの愛情と、佐々木家を護らねばならないという責任感と、小さいときから親の姿を見て育った3人の子供たちが時間を見つけては手伝ってくれたことが、支えになったのではないのでしょうか。昌克さんが軽い脳梗塞をしたこともあり、80歳を迎えたのを機に牧場をたた

で、現在はご夫婦でゆっくりと生活を楽しまれています。仕事や家事、子育てに追われたノリ子さんに「自分の時間がなかなか取れなかったでしょうね」と聞くと、「そうでもないんですよ。主人は若い時から、ギターの演奏、カラオケの先生などして人生を楽しんできた人なんです。だから主人は「人が行く所には、行きよ」と後押ししてく

もあり車の免許も返上しましたが、毎日の生活には特段支障はないそうです。その昌克さんの口癖は「ありがとう」と「すまんのう」という感謝の言葉です。ノリ子さんは、微笑みながら「仏様が答えているみたいで気持ち安らぎます」と話してくれました。最後に、勝福寺に通い始めて30年以上経つノリ子さんに、昔の門徒さんと今の門徒さんの違いやお寺への希望を尋ねてみました。ノリ子さんは報恩講の定番を例に出して「雰囲気随分変わりましたね。以前にくらべ今は当番が楽しそうですね。でも、ふだん門徒さんどうしのお付き合いがないのが寂しいですね。そして希望は、もっとたくさん若い人達がお寺に来てくれて本堂が満堂になること。これが私の夢です」と答えてくれました。是非とも夢が叶うようにしたいものです。私達がお話を伺っている間も、ご主人が席を立つたびに、いたわりの言葉をかけ、微笑みながら見守っておられるノリ子さん。昌克さんはきつとノリ子さんに仏様を見いだしているんじゃないでしょうか。ありがとうございます。(文責 渡辺 重昭)

秋季彼岸会・永代経法要



「親鸞さま、なぜ、お念仏なの？」をテーマにして、彼岸会法要が勤まりました。

九月二十八日(金)

11時 永代経勤行

(物故者追弔会)

門徒感話 (中園尚武)

ミニ法話 (藤谷 風)

12時 お斎(おにぎり・漬け物)

《チャリテイ・バザー》

13時 手品

湯口景右

13時半 彼岸会勤行

(同朋奉讃式第一)

法話 (坊守)

九月二十九日(土)

11時 永代経勤行

(物故者追弔会)

門徒感話 (岡本照子)

ミニ法話 (藤谷 信)

12時 お斎(おにぎり・漬け物)

《チャリテイ・バザー》

13時 日本舞踊

後藤美代子さん他

キム花夏・優夏姉妹

13時半 彼岸会勤行

(同朋奉讃式第一)

法話 (住職)

感話



初日の感話は、四日市上町の中園尚武さん。薬師如来も大日如来もいるのに、なぜ阿弥陀如来なのか？お念仏がもう一つピンとこないが、八百年続いてきた歴史の重みを信じて、疑問をかかえながら聞法しています、と。



二日目の感話は、別府の岡本照子さん。心の奥に較べる心、劣等感などがあつて生きるのがつらかった時、藤谷純子さんに遇つて、こんな自分でも生きられると思つたと、煩惱いっばいの人間の心模様を通して語って下さいました。

イベント



初日は、住職の友人の湯口景右さんを手品をして頂きました。頭に乘せたコップの水が「ア、こぼれる」と思いきや、なぜか、空っぽ。拍手

喝采でした。二日目は、山本の後藤みよ子さんがお友達の



中森美恵子さんと本富美代さんと二人で日本舞踊を踊って下さり、引き続き、同居している孫のキム花夏さんとキム優夏さんがかわいい踊りを披露してくれました。

バザー

皆さまのご協力を得て、今年もチャリテイ・バザーを行うことができました。売上げ金の五〇、二九〇円は、勝福寺ボランティア



御遠忌聞法会のテキストになればと思ひ、これまで学んできたことをまとめて、本にしました。「ただ念仏して弥陀にたすけられよ」と、親鸞聖人は私たちに呼びかけておられますが、そうした教えは、どんな人生から生まれ出たのか、聖人のご生涯をたどりながら考えてみました。皆さん、読んでみて下さい。

【目次】

- 愚禿釋親鸞 — その生涯と教え
- 悲の器 出家する魂 後世を祈る 雑行を棄てて本願に帰する
- 専修念仏弾圧 「愚禿親鸞」の誕生 転法輪の旅 僧伽の誕生 「浄土真宗」の開頭 僧伽崩壊の危機 愚禿悲歎 御入滅
- 惠信尼公 — その生涯とお便り
- はじめに 惠信尼の出自 結婚 流罪 関東へ 最後の旅

2018年度総代会報告

2018年度事業計画

9月18日に総代会が開催され、2017年度の事業報告と2018年度の事業計画が承認されました。

また、「勝福寺宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌」に向けての話し合いを行いました。そして、午後は総代研修として、先般実施した「勝福寺の今後のあり方等について」のアンケート結果の分析をワークショップ方式で実施しました。

その結果については、今後、御遠忌委員会の中で、お寺の在り方を時代相応に改変することについて検討していく際に活用していくことといたします。

(2018年7月1日～
2019年6月30日)

○ 法要日程

- ① 秋季彼岸会 並 永代経
【日程】 18年9月28・29日
【法話】 住職、坊守、藤谷信、藤谷風
- ② 報恩講
【日程】 19年1月25～27日
【法話】 平野喜之先生
【当番】 横町、本町、寺山、新町、東新町
- ③ 春季彼岸会 並 花祭り
【日程】 19年4月7・8日
【法話】 川村妙慶先生

○ 研修事業

- ① 響流山勝福寺「宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌」お待ち受け聞法会
毎月第二土曜日
午後1時半～4時

② 「はじめの一步」

毎月28日午後2時～
(再開予定)

○ 教化活動

- ① 仏教婦人会「かはづの会」
研修会、清掃奉仕、親睦会などを実施
- ② 「たんぼぼ子供会」
春、夏、冬休みに実施
- ③ 「平和の鐘」を撞く集い
8月15日
- ④ 「忘れな鐘」を撞く集い
3月11日
- ⑤ 「ひびき」年四回発行

○ 本山納金 並びに 法要御法礼について

- ・秋季彼岸会 並 永代経 御法礼千円
 - ・本山納金(前期)二千元
 - ・報恩講 御法礼三千元
 - ・お初穂お華束米五百円
 - ・春季彼岸会 並 降誕会 御法礼二千元
 - ・本山納金(後期)千円
- *よろしくお願ひします。

○ 昨年度本山納金について

本山経常費・日豊教区費・宇佐組費・共済掛け金、合計九九四、〇三〇円。おかげさまでお納めすることができました。有り難うございます。

○ 勝福寺親鸞聖人七百五十回御遠忌事業(今後の予定)

- 上山研修と聖跡巡拝
*蓮如上人御影道中の御上洛日に合わせて実施
【日程】 2019年5月7日～10日(3泊4日)
【費用】 7万円程度
- 【募集人員】 30名
- 【募集方法】
一次募集 門徒を対象(来年1月末迄)
二次募集 門徒+信徒(来年3月末迄)

○ 勝福寺史の作製

- お待ち受け聞法会
来年1月から10月(第11回～20回)は外部から講師を招聘する予定
*毎月第二土曜午後1時半

○ 御遠忌法要

【日程】 2019年11月23日(土) 24日(日)
第一日(23日)
恵信尼公・七百五十回忌法要とする

第二日(24日)
親鸞聖人七百五十回忌法要とする

*法要の内容については、今後、御遠忌委員会で話し合っていきます。
*記念品として「勝福寺史」を配布

第10回 お待ち受け聞法会

住職と坊守が担当してきた聞法会も最後となりました。今回は、親鸞聖人のご命日に当たる11月28日(水)の午後1時半に変更して行います。
住職「親鸞聖人のご生涯と教え」最終回
坊守「念仏生活を妙好人に学ぶー恵信尼さまー」
*ぜひご用意して頂きます。

ホーキで一掃！

戦争と原発をなくそう

勝福寺婦人会 釋尼信知(松本知代)



うか？ 「自分たちの国
さえよければ良い。自分
さえよければ良い」とい
うエゴで、戦争を繰り返
すような世を続けていつ
て良いのでしょうか？
そこで私たち勝福寺婦
人会では、

世の中か
ら戦争が
なくなつ
てほしいとの願いのもと
「戦争ホーキ(放棄)」「原
発ホーキ(放棄)」を10年
前より作り続けています。

夜は『少年H』を鑑賞

人との殺し
合いなんて
してほしく
ないと思いま
す。正しい戦争なんてあ
りえないと、私は思いま
す。

材料は本物の絹糸で、
後藤あやめさんがたくさ
ん寄付してくださいまし
た。本年度は2日間で二
七〇個を有志の人10名ぐ
らいで作りました。

でも世界では、今も戦
争が各地で行われ、テロ
も多発している状態です。
戦いの犠牲者となるの
は、何の罪もない女の
や子供たちではないでしょ

8月15日の終戦記念日
に勝福寺にて11時30分よ
り読経焼香した後、正午
より一人一人が平和を願っ

て鐘を撞きました。その
後、戦争ホーキ・原発ホ
ーキを配りました。

夜は映画鑑賞の夕べで
す。みんなで『少年H』
を見ました。少年の目か
ら見た戦争の悲しみ・愚
かさを追体験しました。

私は戦争を知らない世
代ですが、父たちの話を
聞いたりする中で、絶対
に戦争をしてはいけな
いと思うようになりました。
私の子供達や孫達には、



楽しかったたんぼぼ子供会

松尾 悠(四日市北小六年)

私がた
んぼぼ子
ども会で楽
しかったこ
とは、四つ
あります。

一つ目は、
朝のお坊さ
んが読む最
初のおきよ
うを私が読
んだことです。
めったにない
貴重な体験
ができました。

二つ目は滝
です。私は普段滝には行
かないので、とっても楽
しかったです。特に友達
と一緒に滝しゅぎようを
したことが、心に残りま
した。

三つ目
はスイカ
割りです。
スイカを
粉々にし
たかった
けど、ね
らいを定
めても棒
をあげる



時にずれて
しまうので、
とっても難
しかったです。
一回だけこ
すった時が
あったので、
うれしかった
です。

四つ目は、みんなと一
緒にそうめん流しをした
事です。私たちは一番最
初にやらんで、とっても
はやいそうめんをとるこ
とや、最後に私たちが流
すことが楽しかったです。
本当に楽しい事ばかり
でした。こんな楽しい
体験ができてよかったです。
来年もやりたいです。



《生活の知恵袋》

麴 (こうじ) の力

(聞き書 佐藤麗子)



お寺のすぐ近くに創業百七年の伝統ある「渡辺こうじ屋」さんにお話を聞いてきました。

「渡辺こうじ屋」さんは、ご主人の昌敏さんの祖母・春江さんが明治44年に始められ、受け継いだミツルお婆ちゃんさんが50年、そして嫁の栄子さんが30年、今は長男の敬一さんが四代目の跡継ぎとして、技術の習得をしながら日々研鑽中だそうです。

こうじの発酵により、みそ・醤油・本みりん・

純米酒・酢・焼酎・甘酒・塩こうじなどがあり、発酵食品は栄養価も高く、なじみ深い食物です。

今回、こうじ作りについて、栄子さんにお聞きしました。前日から浸していた米を蒸し、厳選した種こうじ菌を混ぜ、こうじを造る。温度管理が最重要で、深夜に起きて温度の確認をしたり、混

ぜることを繰り返すことで、四日後に米に花が咲いたように出来あがりです。米の質・量によっても微妙な手加減を要するそうです。私もその麴室を見たかったのですが、雑菌を怖れてか入れてもえませんでした。お店では、こうじ、塩こうじ、手ごね味噌などを作っています。味噌には美容と健康に驚きの効果があるそうです。「私

は化粧品を使っていない、いつもスッピンよ」とおっしゃる栄子さんの顔も手足も全くシミがなくて美肌なのにびっくり。これこそこうじの力、こうじ造りをしてきたご褒美だと思いました。

*** 「こうじ水」の作り方 ***
材料 《麴百グラム・ミネラルウォーター五百ml》まず三角コーナーの不織布にこうじを入れて口を縛る。それをポットか広口瓶に入れて水を注ぎ、冷蔵庫で八時間ほど寝かせたらもう出来あがり。この糞で三回繰り返し返せる。飲んでよし(三日以内)。塗ってよし(アレルギー確認のためのパッチテストが必要。肥満・高血圧・糖尿病・美肌・美白・薄毛などに効能あり！)
(『壮快』五月号より)

お内仏って何だろう？

(その2)

真宗門徒の豆知識

前号のアンケート結果では、お内仏にお仏飯やお花をあげてお参りをしている人が多いことを知りました。でもその意味が分からないという声もありました。私もお仏飯を上げられなかったり、お花を枯らしたりすると

とても心が痛みます。それは仏様を大事にしているという自責の思いでしょう。坊守の研修会で聞いた忘れられない言葉があります。「上げぬ罰より下げぬ罰」と。これはどういう意味なのでしょう。それは、「仏様にお供養しないことよりも、仏様から与えられているものをいただかないほうが罰当たりですよ」という意味ではないでしょうか。お内仏というのは、各家庭内の持仏堂(じぶつどう)というものだから

です。家庭に仏様をまつて、一番大事なものとしてお給仕してきたのです。特に私達の浄土真宗においては、お内仏は阿弥陀仏の浄土のおはたらきを身に感じさせようとして、私達のためにお荘厳してくださいましたものなのです。(荘厳とは、目に見えないものを見る形で表現すること)だからお仏飯やお花やお香を上げるのも仏様へのお供養とも言えますが、それよりも仏様のおはたらきを表しているという大事な意味があるのです。

《編集後記》

佐々木さんのお話しを聞きながら思ったのは、家族の絆の深さです。子供は親の背中を見て育つと言います。佐々木さんの家庭もそのものズバリでした。

そして、夫婦の支え合いと感謝の心。それが「ありがとう」と「すまんのう」の言葉に表されていました。

今回も素敵なお話しをお聞きする事ができました。有難うございました。
(渡辺重昭)